

米山奨学生 金寛佑様、例会出席ようこそ。

プロ野球、高校野球で試合前のセレモニーと始球式があります。

日本の始球式の最初は 1908 年早大と米国選抜チームとの試合で、早大創設者の大隈重信が始球式の最初といわれています。それから以後、悪球でも投手役への経緯を表してバッドを振り、ストライクにする。日本では自然な行為として受け止められ定着しており、そして日本ならではの礼儀作法だと考えれば味わい深いものに見えてくるのではないのでしょうか。

高校野球と季節到来を告げる試合ごとに鳴り響くサイレン。鳴らし始めた時期や理由についてははっきりしていませんが、戦前の甲子園球場には設置されていました。第10回大会から甲子園球場で開催されるようになり、時代が時代だっただけにラジオ中継がなかったのです。誰かに何かを知らせるときには大きな音を出すしかなかった。それは甲子園を訪れた人達に試合の開始と終了を知らせるために使われ、また次の試合に備える応援団や駅員等球場にかかわる全ての人達はサイレンを頼りに動いていったのです。

それと時代背景から大きく昭和12年中国との戦争が始まった第23回大会から試合の開始と終わりの合図はサイレンではなく、進軍ラップで知らせていたと言われていました。その4年後には大会自体も中止になり、サイレンは空襲のときに鳴らされ、学生がグラウンドに招集する際も合図としてサイレンが使われていました。

また戦後しばらくはサイレンを聞くと戦争を思い出すのでやめてほしい、と苦情があったそうです。

戦後72年経った今でも甲子園球場にサイレンが鳴り響くのは平和だからこそならせる大事な慣習ではないかと思います。